

今月の谷口雅春先生のお言葉

神話の時代から続いている日本国の精神

まず「理念」があつて、日本国家が形づくられた

国家というものも唯物論的に言えば、小さい個人個人という細胞が契約をして、そしてこういう国を拵こしらへておけば個人に都合が良いというので拵こしらえたのであれば、これは人民主権だと言えるでしょう。人民主権と云うことは人体にたとえてみれば細胞主権ということに当ります。併しかし国家が有機的生命体である以上、一つ一つの細胞が主権をもつておると云うことは不合理なのであります。人体は人体として、ある目的をもつてつくられたよ

うに、国家も、国そのものに目的とする「理念」があつて、その理念目的の姿に住民が結びついて国家が形成されたのであります。少くとも日本民族は、国というものを一つの生きものとして、又体またと同じように、一つの理想を有つ一個の「有機的生命体」であるとして考えたのであります。それが日本の民族精神であります。だから日本人の民族精神の表現である『古事記』には、人間の生れるまでに先ず「国」があるのであります。「国わかく浮うき油あぶらの如ごとくして暗くら気げなすただよえるときに生あれましし神の御名みなは……」と書かれております。

先ず国家の「理念」があつて、其の理念が具象化して

瓊々杵命なる姿になって天降つてきて、その理念が沢
山人間という細胞をうみ出した。それが日本民族であつ
て、その民族が、それを生みだした「大和」の理念に従
つて一大団結して建国したところの国が日本国として実
現したのであります。だから日本民族の「理念」という
か「精神」というか「魂」というか「指導理念」とい
うべきか、とも角、そういう「精神的なもの」が天降つ
てきてそれが子孫をうみまして、そこに一大団結すると
ころの国家が形成されたのであります。それを譬喩的に
又は、象徴的に言うと、「天孫降臨」と云うことにな
るのです。
(新装新版『真理』第7巻269〜270頁)

日本は天皇中心の国家である

神話的に云いますならば、日本国家は、天照大御神
の理念の中に先ず造られて、それが「千五百秋の瑞穂
の国は世々わが子孫の王たるべき地なり」と云う天孫降
臨の神勅となつてあらわれております。神話と云うの

は、作者が誰と云う一定の人間ではなくて古代の民族
が、その民族全体の精神によって作られたものであつ
て、民族全体の一致した信念の協同作品と云うような
ものであります。この民族全体の協同信念によって各人
が集団して、日本は天皇中心の国家を形作つたのであ
りますから、日本国家が天皇中心の国家であると云うこ
とは最も民主的なことであります。この民族全体の協同
精神が謂わば日本国家の設計のようなものであつて、そ
の協同精神の通りに、形の世界の日本国は、家が色々の
材料が集められて徐々に出来上るように、出来たのです。
だから日本国家の本質及び設計は、天皇国家の姿をとる
べく日本民族全体の心の中に既にあつたのであります。
それが世の中の進むに従い、形の世界に徐々に出来上つ
て来たのであります。(新装新版『真理』第1巻64〜65頁)

神武天皇の「建国の理想」は今に続いている

そして神武天皇が大和に都を奠め給うたのは、天皇中

心の国と云う日本民族全体の精神が具体化した第一期工
事の完成だと云うことになります。

最近、日本民族の中にも海外から輸入された思想にか
ぶれて、日本が天皇国家の形をとる必要はないと力説す
る人がありますけれども、古代の日本の建国のときの日
本民族精神の協同製作による日本国が吾々の祖国である
とすれば、そしてその祖国のつづきが日本国であるとす
れば、吾々が先祖から引継いだ国は、やはり天皇中心の
国家でなければならぬのであります。そうでなければ
ば、もうその国は、吾々が古代の先祖から引きついだ日
本国ではない、別の国だと云うことになります。

ところが、神武天皇の建国も神話であって、神武天皇
は実在の人物でなかったと云う人が、戦後に日本の歴史
家の中にも出て来たのであります。併し神武天皇が実在
であろうがなかろうが、その神話を古代の日本民族がつ
くったと云うこと其のことが大切であって、日本の国を
建設した古代民族の心の中にある「建国の理想」が、人
格的に表現されて「神武天皇」となったのであります。

そしてその神武天皇が、建国の理想として「八紘を蔽い
て宇と為さん」と仰せられた。これを吾々は一口に「八
紘一字」の建国の理想と申しておりますが、これを、ま
るで世界侵略思想のように外国人は巢鴨法廷（編註・極
東国際軍事裁判Ⅱ東京裁判）で裁判したのであります
が、天地間に外国は無い、何処も彼処も一家族で兄弟である
と云う理想を表現せられたのであります。このように、
日本国はその建国のはじめから、全世界の人類は互に兄
弟であると云う民主主義理想のリーダーとして神武天皇
が描かれているところに日本民族の理想を見るべきであ
ります。

（新装新版『真理』第1巻65～66頁）

